

景況調査

報告書 NO. 85

令和元年 10月～ 12月 実績
令和2年 1月～ 3月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

令和元年度第3四半期(R1.10~12月)景況調査

1. 調査時点 令和元年12月18日～12月27

2. 調査対象
 (1)対象地区 蒲郡市内
 (2)対象(回答)企業 99[92企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	44 (3)	9 (2)	16 (1)	14	6 (1)	10	99 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比で△17.2、前期実績(7～9月△17.7)に比較すると0.5ポイントの上昇・悪化の傾向が見られ、前年同期比では△27.2、前期実績(7～9月△14.9)と比較すると12.3ポイントの下降・悪化の傾向が見られた。**売上DI値**は、前期比で△4.0ポイント、前期実績(7～9月△12.2)と比較すると8.2ポイントの上昇・悪化の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△12.1、前期実績(7～9月△17.7)と比較すると5.6ポイントの上昇・悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(R02.1～3月)見通し**については△30.3、今期の実績(全業種(当期実績)前期比△17.2)と比較すると13.1ポイントの下降・悪化の見込みとなった。

「**製造業**」のうち**食料品**は年末の繁忙期にあり、前年同期比、前期比ともにほぼ全ての数値で上昇となった。織物は暖冬の影響もあってか前期比で売上は下降も、前年同期比では売上・収益とも横バイ。漁網・ロープ9月に消費増税前の駆込需要が1～2割程あった反動からか、10月以降の経済状況は前年に比べて悪い。造船・船舶、産業資材に比べて漁業資材の動きが悪い。鉄工のうち工作機械関係は内需・外需ともに前年同月比で3～4割の減少が続く。当地区においても前年同期・前期比で売上はじめ各指標が悪化し業界全体で減速が続く。自動車関係は消費増税後の反動減が懸念されたが、トヨタの国内日当たり生産は1万2千台～3千台で堅調に推移。新型車の投入等も維持に貢献。化学工業は国内・輸出とも堅調。プラスチックは国内向けは堅調に推移したものの、自動車中心にした海外向け製品の需要が落ち込み、全体では苦戦。

「**建設業**」は、収益は僅かに上昇したが売上・総合は下降となった。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は<産業資材>経済減速、消費増税、暖冬の影響も大きく荷動きが非常に悪い<インテリア>9月の掛込需要に対し10～11月の反落は予想の範囲内に収まった。12月は暖冬の影響も受けてか盛り上がり欠ける<アパレル>駆込需要もなく、台風、温暖化の影響で秋・冬物は大変厳しい。

「**小売業**」は、消費増税後の反落後に年末の最繁忙期を迎えた。売上は上昇改善も収益・総合は下降悪化の状況となった。対象者が絞られた今回のプレミアム付き商品券の影響はあまり感じられず。飲食は食欲の秋、忘年会シーズンの繁忙期で売上・収益ともに好調な時期であった。石油等その他小売は原油価格(WTI期近物)は世界経済の緩やかな拡大が需要を下支えするなか、にわかに高まる中東情勢の緊迫化で値を上げつつ、米中貿易摩擦や軟調な主要国の経済動向に合わせて値を下げるなど一喜一憂の展開が続いた。

「**サービス業**」のうち**旅館関係**10月の台風の影響もあり前年比を下回る結果。自然災害対策の重要性が増している。10～12月のインバウンドは横バイも通年では対前年比3割程度増加と重要性が増す。忘年会は多様化・小グループ化で旅館では減少傾向。

「**運輸通信業**」**貨物輸送**では完成車輸出は、欧州北米向けの減少で月1万台を割り込んだまま。海上コンテナ貨物輸出は中国向け中心に好調維持。鋼材移入も月間1万t以上の好調維持。旅客関係では今期は行楽シーズンで好調。対前年比を上回った。

設備投資状況は、31事業所(47件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は28事業所(49件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では売上の停滞・減少、利幅の縮小、人件費の増加、人手不足、原材料(燃料)高が項目別で上位を占めていた。

当地区において 第3四半期は、通常年間で最もDI値が高まる時期だが、今期は消費増税の反落、米中に端を発する経済環境の低迷、さらに暖冬が加わり、伸び悩んだ業種が数多く見られた。特に対前年比での悪化は鮮明である。業種別では食料品製造、飲食等が好調な反面、鉄工、化学・プラスチック、旅館等は苦戦。経営上の問題点でも売上、利幅の減少を訴える声が増加し、地方における個人消費の停滞感と景気全体の減速感が強まっている。本所では、アクションプラン第1期の総括および第2期の策定を控え、地域経済の持続的発展を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

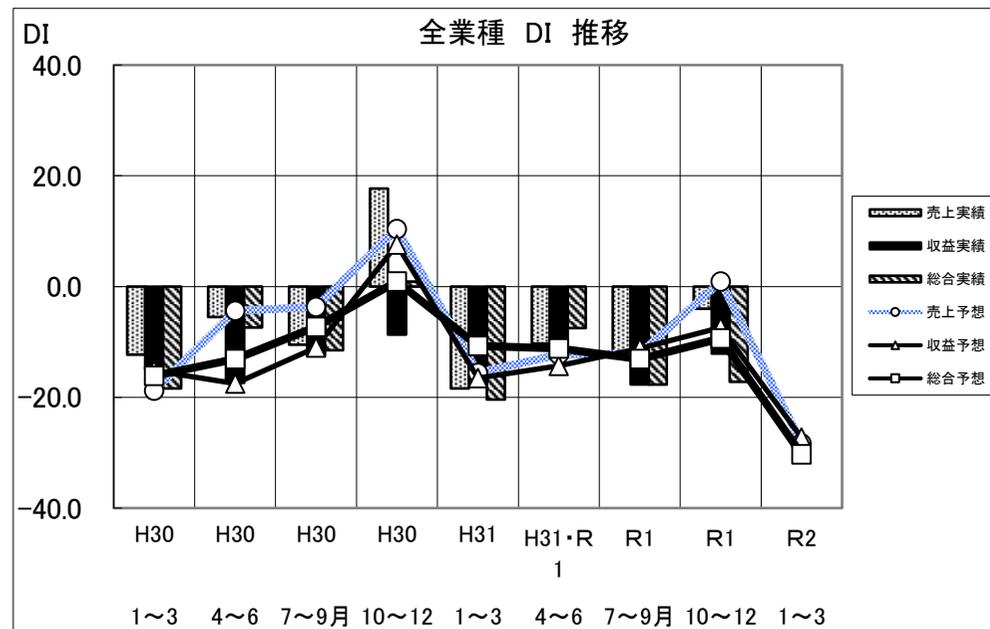
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-25.3	-4.0	-28.3	H30.10～12月実績	6.8	17.7	-11.7	-8.7	-6.8	0.9	-10.7
②製品・商品在庫	-21.2	-21.3	-17.2	H31.1～3月実績	-8.1	-18.4	-15.3	-17.3	-14.3	-20.4	-11.2
③資金繰り	-8.1	-9.1	-13.2	H31.4～R1.6月実績	-12.1	-10.3	-14.0	-10.3	-10.3	-7.5	-13.1
④採算(収益)	-22.2	-12.1	-27.3	R1.7～9月実績	-13.1	-12.2	-16.8	-17.7	-14.9	-17.7	-9.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-8.1	R1.10～12月実績	-25.3	-4.0	-22.2	-12.1	-27.2	-17.2	-30.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-27.2	-17.2	-30.3								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H31.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R2.1~3月見通し
売上	-12.3	-5.5	-10.5	17.7	-18.4	-10.3	-12.2	-4.0	-28.3
収益	-15.0	-17.4	-12.4	-8.7	-17.3	-10.3	-17.7	-12.1	-27.3
総合	-18.4	-7.4	-11.5	0.9	-20.4	-7.5	-17.7	-17.2	-30.3

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少)

製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加)

資金繰り :DI=(好転)ー(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)

従業員数 :DI=(増加)ー(減少)

業況(総合判断):DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

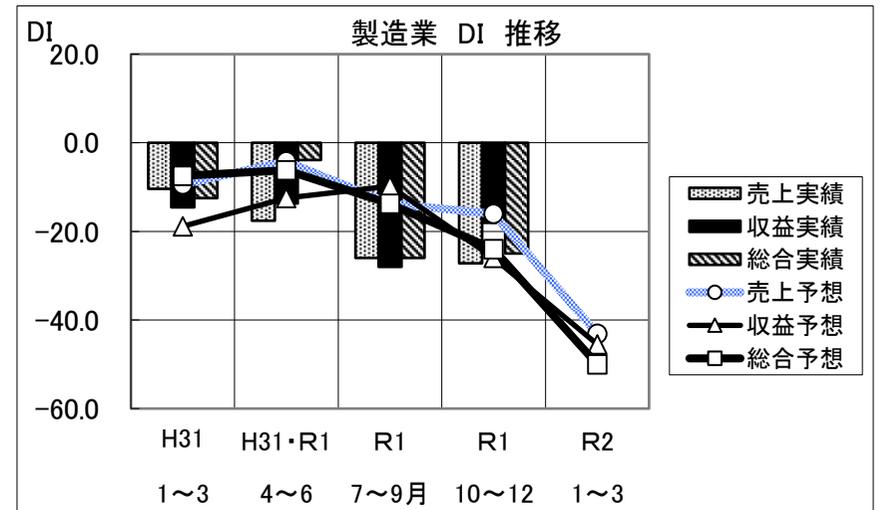
売上DI値は△27.2、前期実績(7～9月期 △26.0)に比して1.2ポイントの下降、収益DI値は△18.1、前期実績(7～9月期 △28.0)に比して9.9ポイントの上昇、総合判断DI値は△25.0、前期実績(7～9月期 △26.0)に比して1.0ポイントの上昇と、売上は下降。収益・総合は上昇も悪化の続く状況。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合共に下降・悪化の厳しい見通しとなっている。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-29.6	-27.2	-43.1
②製品・商品在庫	-25.0	-22.7	-20.5
③資金繰り	-9.1	-18.2	-25.0
④採算(収益)	-20.4	-18.1	-45.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	13.6	2.3	-11.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-36.4	-25.0	-50.0



<業況判断DIの推移>

	H30.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R2.1～3月
売上	-10.4	-17.6	-26.0	-27.2	-43.1
収益	-14.6	-13.7	-28.0	-18.1	-45.5
総合	-12.5	-3.9	-26.0	-25.0	-50.0

[食料品]

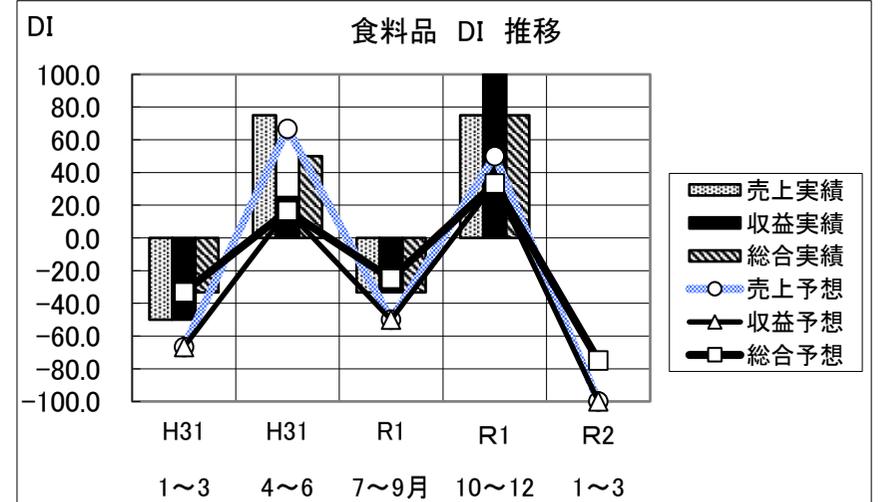
売上は前期比DI値は75.0と上昇、前年同期比ではDI値25.0と上昇。収益では、前期比DI値で100.0と上昇、前年同期比では50.0と上昇。総合判断では前期比DI値は75.0と上昇、前年同期比はDI値25.0と上昇。年末の繁忙期にあり、前年同期比、前期比ともにほぼ全ての数値で上昇となった。

向こう3ヶ月の見通し 年末の繁忙期を過ぎた閑散期に入り売上DI値△100.0、収益DI値△100.0、総合判断DI値△75.0と業況は下降する見通しである。いかに消費者ニーズを掘り起こす商品を提供できるかが課題であり、愛知県産小麦やアサリ・深海魚等の特徴的な水産物、東三河の農産物など地産食材を活用した商品展開に力を入れている企業が見られ、今後も地域性を売りにした商品開発の動きが期待される。

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	25.0	75.0	-100.0
②製品・商品在庫	-75.0	-25.0	-50.0
③資金繰り	25.0	25.0	-50.0
④採算(収益)	50.0	100.0	-100.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	75.0	-25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	25.0	75.0	-75.0



<業況判断DIの推移>

	H30.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R2.1～3月
売上	-50.0	75.0	-33.3	75.0	-100.0
収益	-50.0	25.0	-33.3	100.0	-100.0
総合	-33.3	50.0	-33.3	75.0	-75.0

【織物】

暖冬の影響もあってか前期比で売上は下降も、前年同期比では売上・収益とも横バイ。多重織りガーゼの受注にも一服感がある。インテリア向けジャカードカーテンは深刻な状況が続き、産業資材も苦戦している状況。

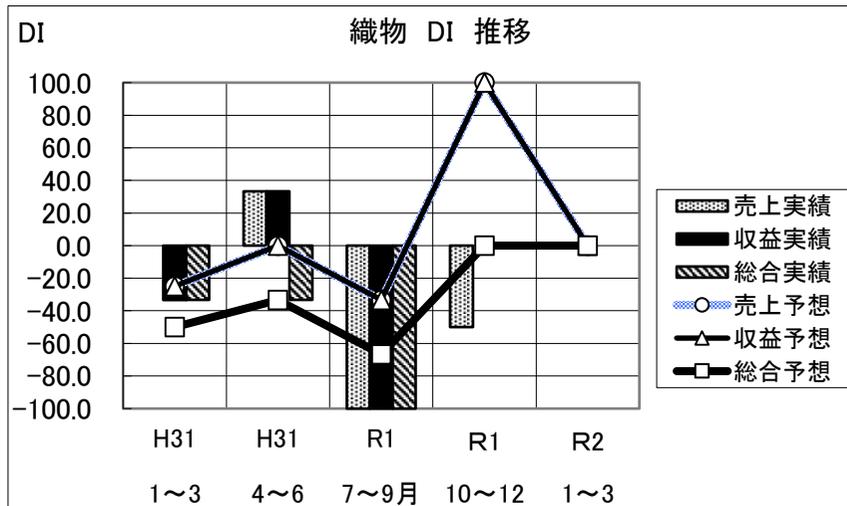
向こう3カ月の見通し

冬物の需要期で売上・収益は改善の見込み。多重織りガーゼについては一定量の受注が見込まれるも、海外も含めて競合が増えつつあり総合的には厳しい状況。

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-50.0	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R2.1~3月
売上	0.0	33.3	-100.0	-50.0	0.0
収益	-33.3	33.3	-100.0	0.0	0.0
総合	-33.3	-33.3	-100.0	0.0	0.0

【漁網・ロープ】

9月に消費増税前の駆け込み需要が1~2割程あった反動からか、10月以降の経済状況は前年に比べて悪い。造船・船舶、産業資材に比べて漁業資材の動きが悪い。

向こう3カ月の見通し

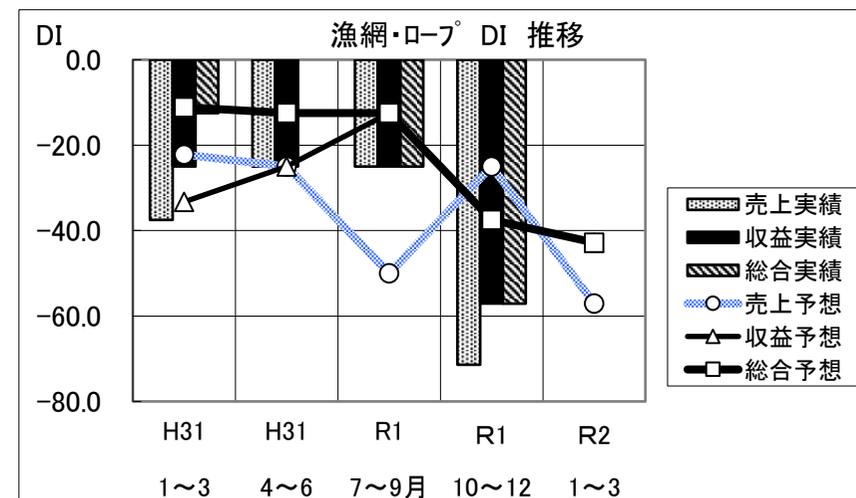
反動からの回復に対する不透明感が強く、売上・採算はじめ落ち込みが予測されている。

(繊維ロープ部会)

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-57.1	-71.4	-57.1
②製品・商品在庫	0.0	-14.3	-14.3
③資金繰り	-14.3	-28.6	-28.6
④採算(収益)	-28.6	-57.1	-42.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	-14.3	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-42.8	-57.1	-42.8



<業況判断DIの推移>

	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R2.1~3月
売上	-37.5	-25.0	-25.0	-71.4	-57.1
収益	-25.0	-25.0	-25.0	-57.1	-42.8
総合	-12.5	0.0	-25.0	-57.1	-42.8

[鉄工]

<工作機械関係> 日本工作機械工業会の受注総額(内需・外需)では、10月874億円、11月816億円、12月899億円。内需・外需ともに前年同月比で3~4割の減少が続く。当地区においても前年同期・前期比で売上はじめ各指標が悪化し業界全体で減速が続く。向こう3カ月の見通し米中関係の長期化や、日韓関係など不透明な要素が多く厳しい状況が続く見込み。<自動車部品関係> 消費増税後の反動減が懸念されたが、トヨタの国内日当たり生産は1万2千台~3千台で堅調に推移。新型車の投入等も維持に貢献。向こう3カ月の見通しトヨタの国内日当たり生産は、やや慎重な1万2千台での推移が見込まれている。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年10月~12月 に比べて	前期比 令和1年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-45.5	-40.9	-31.9
②製品・商品在庫	-31.8	-31.8	-22.7
③資金繰り	-13.7	-31.9	-31.9
④採算(収益)	-40.9	-40.9	-54.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	13.7	0.0	-9.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-41.0	-54.5

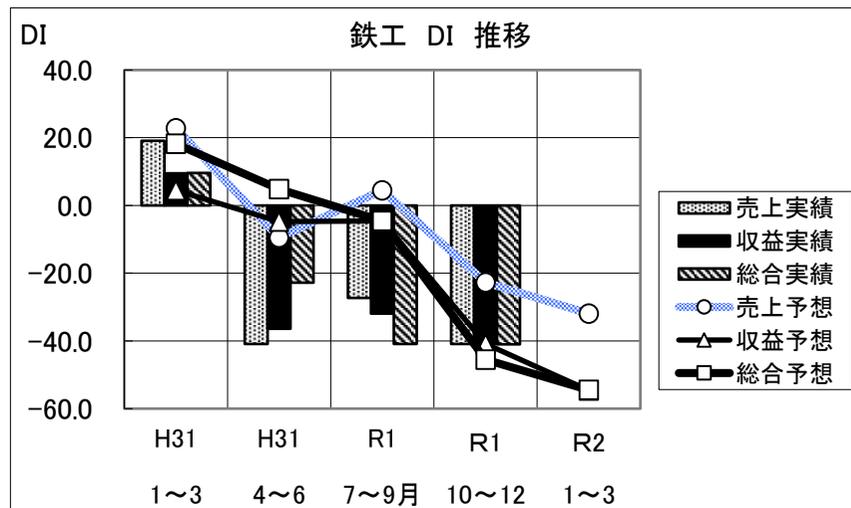
[化学・プラスチック]

<化学工業> 国内・輸出ともに堅調であった。向こう3カ月の見通し中国市況に左右されるため、推移を注視。

<プラスチック> 国内向けは堅調に推移したものの、自動車中心にした海外向け製品の需要が落ち込み、全体では苦戦。向こう3カ月の見通し海外向け製品の受注状況は悪く、国内においても価格競争の激化で当面は厳しい状況が続く見込み。(化学部会)

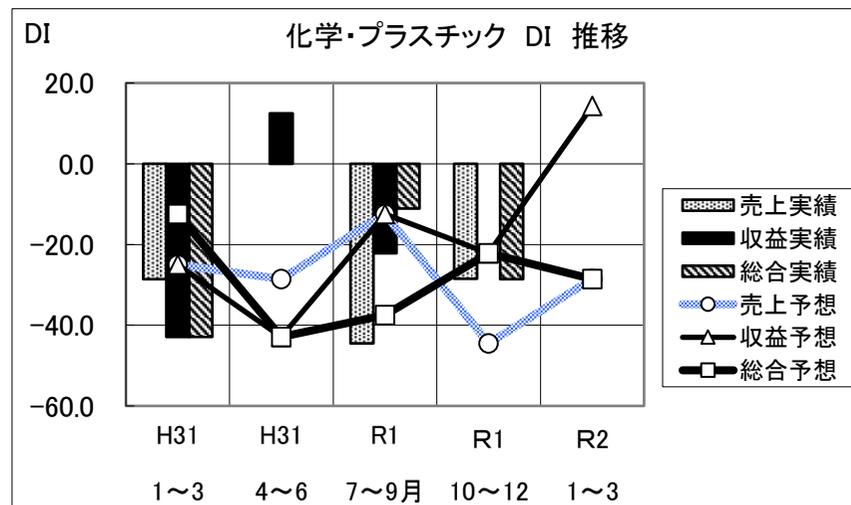
(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年10月~12月 に比べて	前期比 令和1年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-28.5	-28.5	-28.6
②製品・商品在庫	-14.3	-14.3	-14.3
③資金繰り	-14.3	0.0	0.0
④採算(収益)	-14.3	0.0	14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-14.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-57.1	-28.6	-28.6



<業況判断DIの推移>

	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R2.1~3月
売上	19.1	-40.9	-27.3	-40.9	-31.9
収益	9.5	-36.4	-31.9	-40.9	-54.6
総合	9.6	-22.8	-40.9	-41.0	-54.5



<業況判断DIの推移>

	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R2.1~3月
売上	-28.6	0.0	-44.5	-28.5	-28.6
収益	-42.9	12.5	-22.2	0.0	14.3
総合	-42.9	0.0	-11.1	-28.6	-28.6

建設業

売上DI値は△22.2、前期実績7～9月期(33.3)に比して55.5ポイントの下降、収益DI値は11.1、前期実績7～9月期(0.0)に比して11.1ポイントの上昇、総合判断DI値は△11.1、前期実績7～9月期(11.1)に比して22.2ポイントの下降。収益は僅かに上昇したが売上・総合は下降となった。
向こう3カ月の見通し 公共工事の需要期に入り、売上・収益・総合ともに上昇・改善の見込み。
 (建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-22.2	-22.2	33.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	11.1
④採算(収益)	-22.2	11.1	11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-11.1	0.0	11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-11.1	-11.1	11.1

卸売業

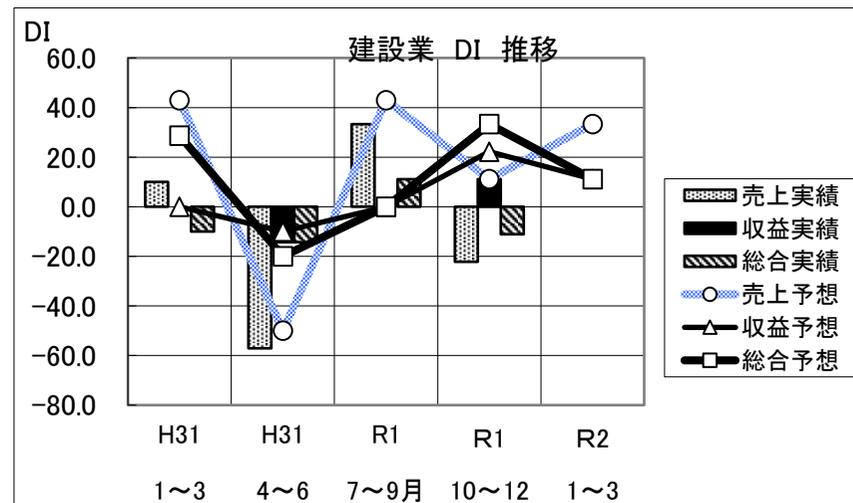
売上DI値は31.3、前期実績7～9月期(△13.3)に比して44.6ポイントの上昇。収益DI値は△6.3、前期実績7～9月期(△6.7)に比して0.4ポイントの上昇、総合判断DI値は△18.7、前期実績7～9月期(△33.3)に比して14.6ポイントの上昇。秋冬物の最盛期に入り前期比で売上は上昇も、前年同期比では大きく悪化。消費税増税前の駆け込み需要の反落と暖冬に加え、産業資材では経済全体の停滞の影響を訴える声もあった。

向こう3カ月の見通し 例年1～3月期は最も荷動きが停滞する時期であり、売上・収益・総合ともに悪化の傾向。

卸売業

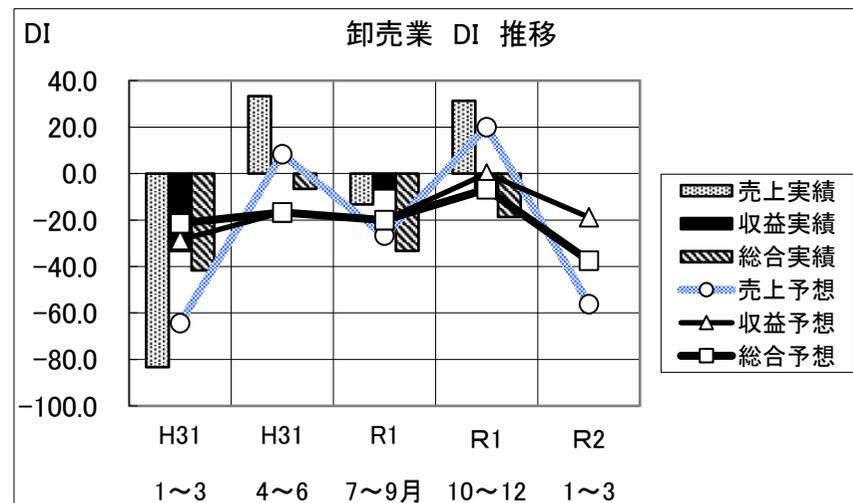
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	31.3	-56.2
②製品・商品在庫	-50.0	-56.2	-37.5
③資金繰り	-25.0	-25.0	-18.8
④採算(収益)	-37.5	-6.3	-18.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	0.0	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-43.7	-18.7	-37.5



<業況判断DIの推移>

	H30.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R2.1～3月
売上	10.0	-57.1	33.3	-22.2	33.3
収益	0.0	-14.3	0.0	11.1	11.1
総合	-10.0	-14.3	11.1	-11.1	11.1



<業況判断DIの推移>

	H30.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R2.1～3月
売上	-83.3	33.3	-13.3	31.3	-56.2
収益	-33.3	0.0	-6.7	-6.3	-18.8
総合	-41.7	-6.6	-33.3	-18.7	-37.5

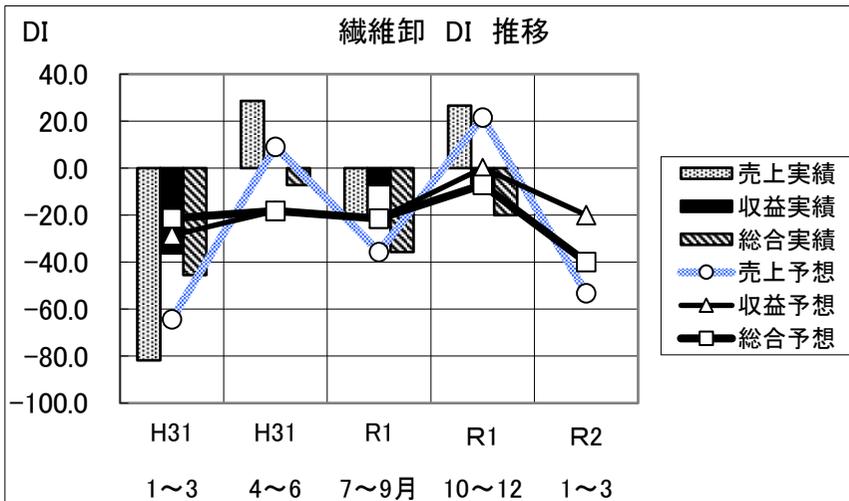
【繊維卸】

＜産業資材＞米中貿易摩擦による経済減速、消費増税の影響も重なり、景気足踏み状態。更に暖冬の影響も大きく、冬物衣料等に活気が無く荷動きが非常に悪い。向こう3カ月の見通し 冬物商戦の活気も乏しいが、ニーズに対しスピードを持って対応したい。＜インテリア＞9月の掛込需要に対し10～11月の反落は予想の範囲内に収まった。12月は暖冬の影響も受けてか盛り上がり欠ける。向こう3カ月の見通し1月中旬以降2月は活気に欠ける状況。3月は例年並みの見込み。＜アパレル＞駆込需要もなく、台風、温暖化の影響で秋・冬物は大変厳しいはた。唯一、麻の高率混関係（キャンパス、シーチング）は供給数が限られ受注は堅調。向こう3カ月の見通し 素材ではオーガニックの複合素材（オーガニックコットン×再生レーヨン）の動きが良い。輸出向けはコンスタントな受注を見込む。（繊維部会）

（繊維卸）

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-46.6	26.6	-53.3
②製品・商品在庫	-53.3	-53.3	-40.0
③資金繰り	-26.6	-26.7	-20.0
④採算(収益)	-40.0	-6.7	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-6.6	0.0	-13.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-46.6	-20.0	-40.0



＜業況判断DIの推移＞

	H30.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R2.1～3月
売上	-81.8	28.6	-21.5	26.6	-53.3
収益	-36.3	0.0	-7.2	-6.7	-20.0
総合	-45.5	-7.2	-35.7	-20.0	-40.0

小売業

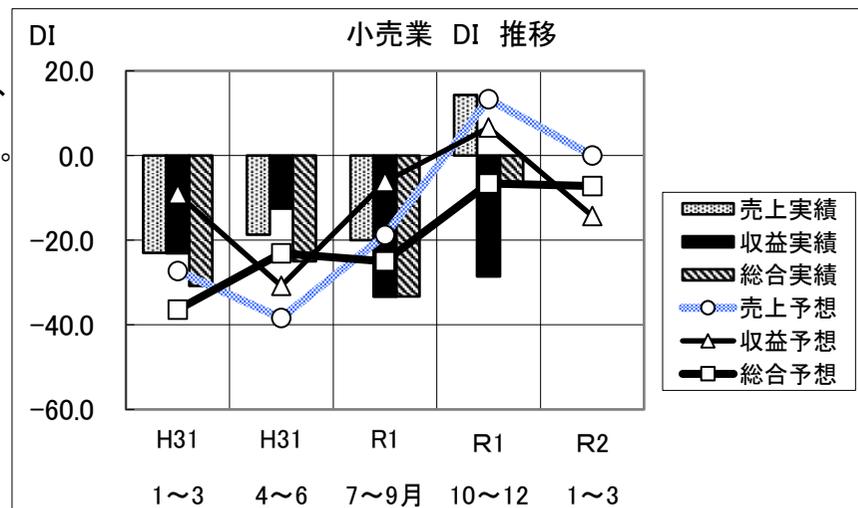
売上DI値は14.3、前期実績7～9月期(△20.0)に比して34.3ポイントの上昇。収益DI値は△28.6、前期実績7～9月期(△33.4)に比して4.8ポイントの上昇、総合判断DI値は△7.2、前期実績7～9月期(△33.3)に比して26.1ポイントの上昇。消費増税後の反落後に年末の最繁忙期を迎えた。売上は上昇改善も収益・総合は下降悪化の状況となった。対象者が絞られた今回のプレミアム付き商品券の影響はあまり感じられず。

向こう3カ月の見通し 売上は横バイも収益・総合はやや下降の水面下。年末を過ぎて小売業界全体が一服の時期。消費増税の影響がどこまで顕在化するか注視。（商業部会）

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	14.3	14.3	0.0
②製品・商品在庫	-14.3	-14.3	-14.3
③資金繰り	-7.2	7.2	7.2
④採算(収益)	-21.5	-28.6	-14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-35.7	-21.4	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-7.2	-7.2



＜業況判断DIの推移＞

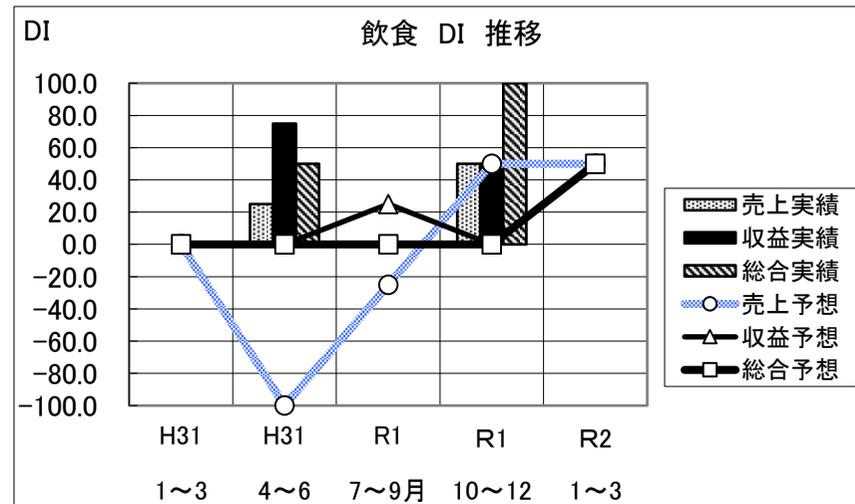
	H30.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R2.1～3月
売上	-23.0	-18.7	-20.0	14.3	0.0
収益	-23.1	-12.5	-33.4	-28.6	-14.3
総合	-30.8	-25.0	-33.3	-7.2	-7.2

[飲食]

食欲の秋、忘年会シーズンの繁忙期で売上・収益ともに好調な時期であった。
 向こう3カ月の見通し 全体的にはあまり大きな変化はない見込みだが、新年会・歓送迎会等の団体利用もある時期。「地魚の日」や映画「ゾッキ」など、地域の盛り上げりに協力するなかで付加価値を生みだす取り組みを進めたい
 (蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食) (DI 単位: %)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	100.0	50.0	50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	50.0	50.0	50.0
④採算(収益)	100.0	50.0	50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	100.0	100.0	50.0



<業況判断DIの推移>

	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R2.1~3月
売上	0.0	25.0	0.0	50.0	50.0
収益	0.0	75.0	0.0	50.0	50.0
総合	0.0	50.0	0.0	100.0	50.0

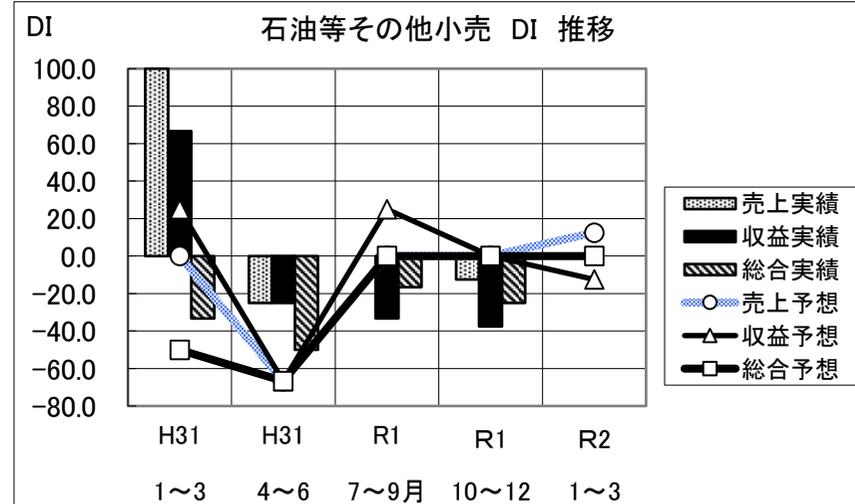
[石油等その他小売]

原油価格(WTI 期近物)は世界経済の緩やかな拡大が需要を下支えするなか、にわかに高まる中東情勢の緊迫化で値を上げつつ、米中貿易摩擦や軟調な主要国の経済動向に合わせて値を下げるなど一喜一憂の展開が続いた。

向こう3カ月の見通し 世界経済の減速や米中対立の長期化による需要減退懸念もあるが、中東情勢の緊張の高まりがリスク要因となって先行きは不透明である。(エネルギー部会)

(石油等その他小売) (DI 単位: %)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	-12.5	12.5
②製品・商品在庫	-12.5	-12.5	-12.5
③資金繰り	-25.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-37.5	-37.5	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-37.5	-12.5	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-25.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R2.1~3月
売上	100.0	-25.0	0.0	-12.5	12.5
収益	66.7	-25.0	-33.3	-37.5	-12.5
総合	-33.3	-50.0	-16.6	-25.0	0.0

サービス業

売上DI値は33.3、前期実績7～9月期(10.0)に比して23.3ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績7～9期(0.0)に比して横バイ、総合判断DI値は△16.6、前期実績7～9期(10.0)に比して△26.6ポイントの下降と、売上は上昇も収益は横バイ・総合は下降の状況。年末年始の繁忙期を迎えて前期比では上回るも前年同期比では売上・採算ともに下降を訴える声が多かった。

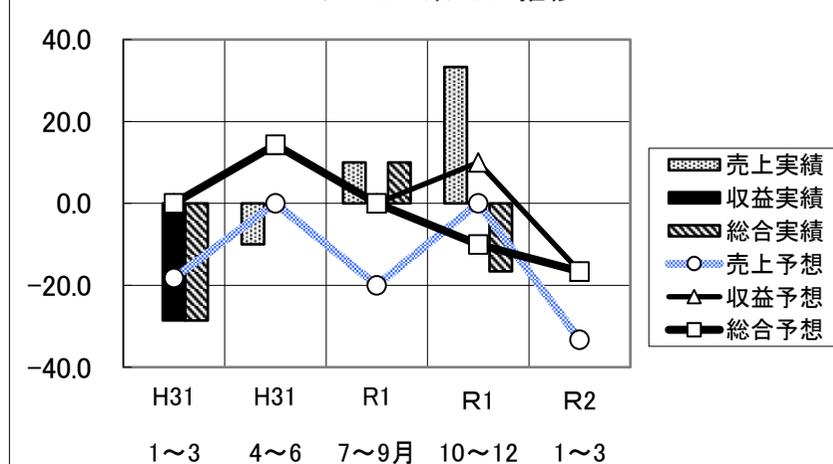
向こう3カ月の見通し 年始後は閑散期に入り、売上・収益・総合とも下降・悪化の見通し。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	33.3	-33.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	16.7	-16.7
④採算(収益)	-16.6	0.0	-16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-16.6	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.6	-16.6	-16.6

サービス業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H30.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R2.1～3月
売上	0.0	-10.0	10.0	33.3	-33.3
収益	-28.6	0.0	0.0	0.0	-16.6
総合	-28.6	0.0	10.0	-16.6	-16.6

[旅館]

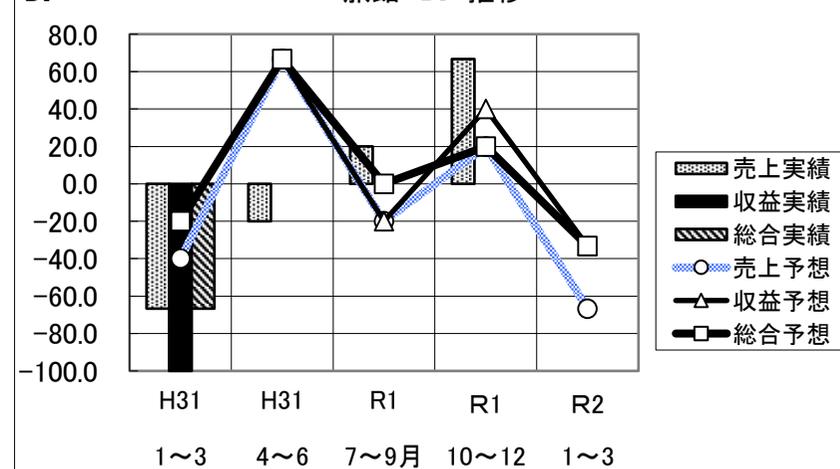
10月の台風の影響もあり前年比を下回る結果。自然災害対策の重要性が増している。10～12月のインバウンドは横バイも通年では対前年比3割程度増加にあり重要性は増している。忘年会は多様化・小グループ化で旅館での開催は減少傾向が続く。還元もありキャッシュレス決済の利用は大きく増加。コスト負担もあるがチェックアウトがスムーズになる利点もあった。また10～11月は各地区の祭礼、MIKAWA deじゃんだらりん、くらふとフェア、深海魚まつり等、多くのイベントが開催された。向こう3カ月の見通し 来年は東京五輪による訪日外国人の増加に加え、国内の家族旅行は逆に東京以外へ流れるケースもあるため、春以降の盛り上がりには期待。また自然災害からの復興のため現在11都道府県で復興割を実施中。業界全体で人の流れが少し変わっている。来航するクルーズ船へも日帰り入浴等のサービス提供は可能であり、シティセールスの一環として協力していきたい。(観光部会)

(旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	66.7	-66.7
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	33.3	0.0
④採算(収益)	-66.7	0.0	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	-66.7	-33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-66.7	0.0	-33.3

旅館 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H30.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R2.1～3月
売上	-66.7	-20.0	20.0	66.7	-66.7
収益	-100.0	0.0	0.0	0.0	-33.3
総合	-66.7	0.0	0.0	0.0	-33.3

運輸通信業

売上DI値は10.0、前期実績7～9月期(12.5)に比して2.5ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績7～9月期(12.5)に比して12.5ポイントの下降、総合判断DI値は0.0、前期実績7～9月期(25.0)に対して25.0ポイントの下降と、売上は上昇、収益・総合は横バイとなった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに僅かに下降の見通しである。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-10.0	10.0	-10.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	10.0	10.0	0.0
④採算(収益)	-10.0	0.0	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	20.0	30.0	10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	0.0	-10.0

[旅客・貨物輸送・水運]

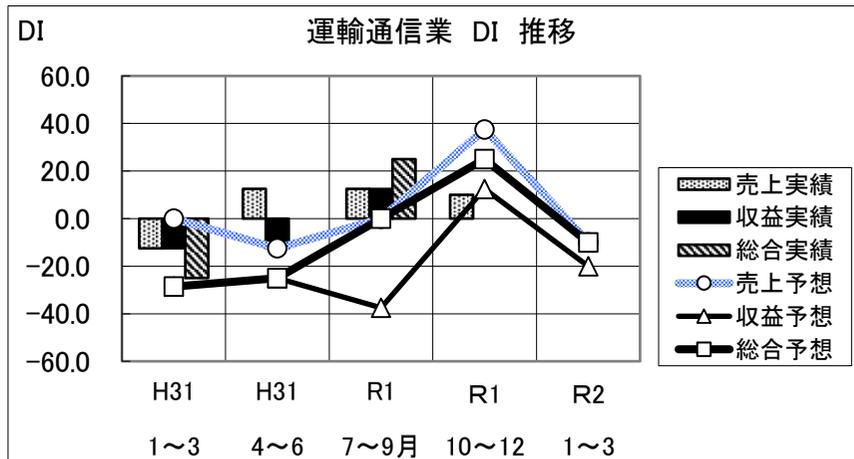
＜貨物輸送＞ 完成車輸出は北米・欧州不振で1万台を割り込む。海上コンテナ貨物は中国向け中心に堅調。鋼材移入は月間1万t以上の好調を維持。向こう3カ月の見通し 完成車輸出は引き続き1万台を割り込む見込み。海上コンテナ貨物は中国向け中心に堅調の鑄込み。鋼材移入は月間1万t以上の好調を維持する見込み。

＜旅客＞ 今期は行楽シーズンで好調。対前年比を上回った。向こう3カ月の見通し 現在のところ、順調に推移しており対前年比を上回る見込み。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

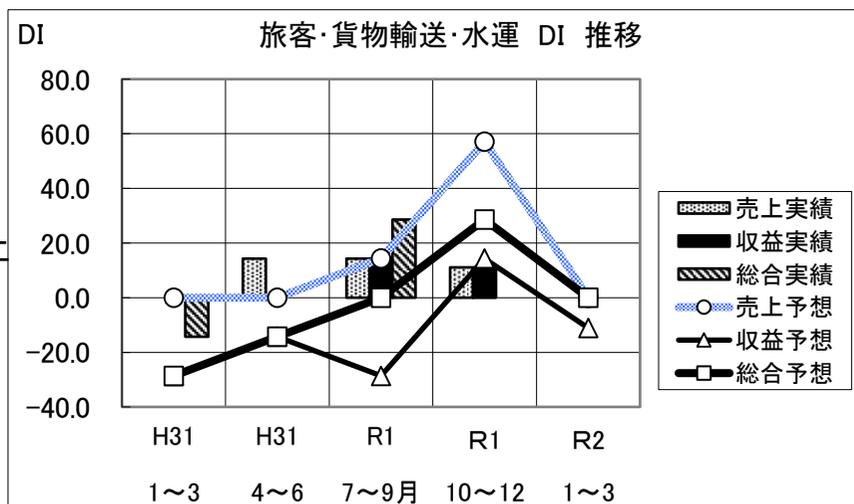
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年10月～12月 に比べて	前期比 令和1年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和2年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-11.1	11.1	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	11.1	11.1	0.0
④採算(収益)	0.0	11.1	-11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	11.1	33.3	11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-11.1	0.0	0.0



＜業況判断DIの推移＞

	H30.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R2.1～3月
売上	-12.5	12.5	12.5	10.0	-10.0
収益	-12.5	-12.5	12.5	0.0	-20.0
総合	-25.0	0.0	25.0	0.0	-10.0

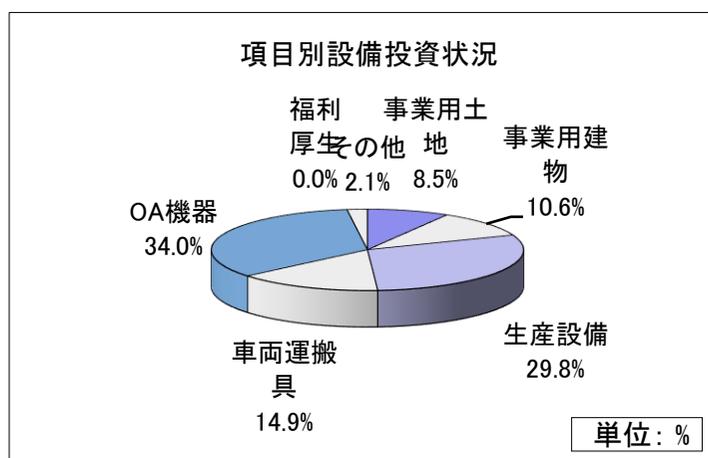
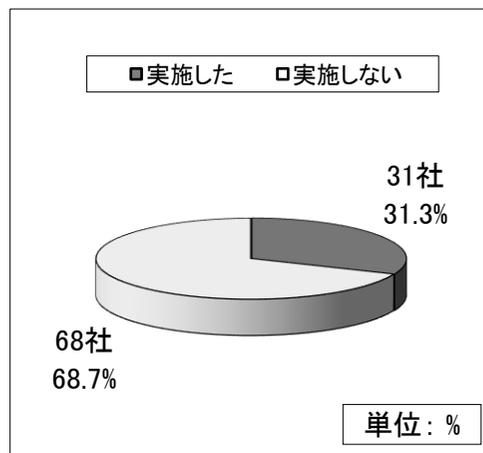


＜業況判断DIの推移＞

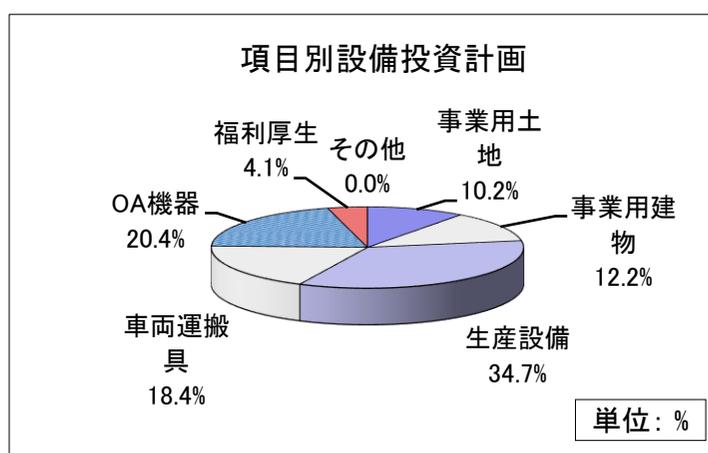
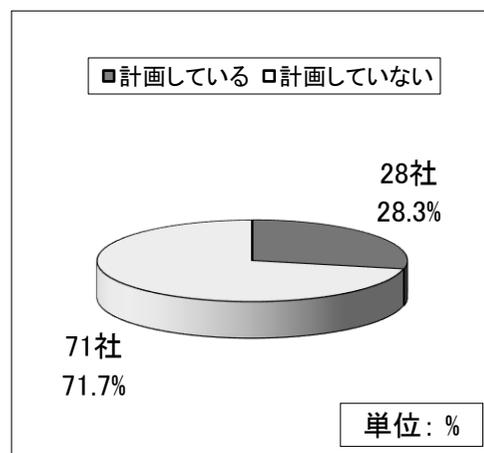
	H30.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R2.1～3月
売上	0.0	14.3	14.3	11.1	0.0
収益	0.0	0.0	14.3	11.1	-11.1
総合	-14.3	0.0	28.6	0.0	0.0

7. 設備投資動向

＜今期(R1.10～12月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(R2.1月～3月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	4	5
事業用建物	5	6
生産設備	14	17
車両運搬具	7	9
OA機器	16	10
福利厚生	0	2
その他	1	0
計	47	49

(単位:件)

◎今期(R1.10～12月)、来期(R2.1～3月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (R1.10～12月)	31	17	2	2	3	3	4
2. 来期 (R2.1～3月)	28	18	1	2	1	2	4

(単位:事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 99 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	65 65.7%
2	利幅の縮小	41 41.4%
3	人件費の増加	37 37.4%
4	人手不足	34 34.3%
5	原材料(燃料)高	19 19.2%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 44 社	売上の停滞・減少 34 社 77.3%	人件費の増加 19 社 43.2%	利幅の縮小 18 社 40.9%
建設業 9 社	利幅の縮小 5 社 55.6%	人手不足 5 社 55.6%	人件費の増加 4 社 44.4%
卸売業 16 社	売上の停滞・減少 12 社 75.0%	利幅の縮小 6 社 37.5%	在庫過多 6 社 37.5%
小売業 14 社	売上の停滞・減少 8 社 57.1%	競争激化 7 社 50.0%	利幅の縮小 5 社 35.7%
サービス業 6 社	人手不足 5 社 83.3%	売上の停滞・減少 3 社 50.0%	人件費の増加 3 社 50.0%
運輸通信業 10 社	人手不足 6 社 60.0%	売上の停滞・減少 5 社 50.0%	利幅の縮小 5 社 50.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.85

番号	調査項目	単位	R02.02報告	基準日	R01.11報告	基準日	R01.08報告	基準日	R01.05報告	基準日	出典
1	人口	人	80,306	R1.12.1	80,385	R01/10/1	80,395	H31.4.1	80,521	H31.4.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		3,247		3,218		3,160		3,078		
2	世帯数	世帯	32,852	R1.12.1	32,800	R01/10/1	33,029	H31.4.1	32,545	H31.4.1	"
	(うち外国人)		1,627		1,614		1,585		1,537		
3	15才～65才生産人口	人	48,079	R1.12.1	48,146	R01/10/1	48,166	H31.4.1	48,266	H31.4.1	"
	(うち外国人)		2,682		2,667		2,624		2,555		
4	全国完全失業率	%	2.4%	R01.9月	2.3	R01.6月	2.4	H31.5月	2.5	H31.3月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	1.9	7月～9月	1.9	R01.4～6月	1.6	H31.1～3月	1.8	H30.10～12月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
5	全国有効求人倍率	倍	1.57	R01.10月	1.59	R01.8月	1.62	R01.5月	1.63	H31.3月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.93	R01.10月	0.85	R01.8月	0.99	R01.5月	1.17	H31.2月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶を除く)前年同月比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比(実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	528.8	2.9	1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	533.4	0.0	▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	526.0	▲ 0.9	▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	521.9	0.7	▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	528.4	2.5	▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	519.2	▲ 0.5	▲ 1.7	-
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	514.9	0.9	0.1	-
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	517.7	2.0	▲ 1.0	588.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	521.3	1.7	0.4	582.1
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	525.6	2.0	▲ 0.4	586.2
2006年度	275	4.1	1.06	5.0	1,285,246	529.0	1.4	▲ 2.2	561.9
2007年度	257	3.9	1.04	2.3	1,035,598	530.9	1.2	0.9	532.0
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 16.6	1,039,214	509.5	▲ 3.4	▲ 1.9	470.1
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 15.4	775,277	492.0	▲ 2.2	▲ 0.2	488.0
2010年度	334	5.1	0.52	19.4	819,020	499.4	3.3	0.3	460.1
2011年度	284	4.5	0.65	4.2	841,246	494.0	0.5	▲ 2.2	475.3
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 7.1	893,002	494.4	0.8	1.1	521.0
2013年度	265	4.0	0.93	10.6	987,254	507.3	2.6	1.0	569.2
2014年度	236	3.6	1.09	8.0	880,470	518.2	▲ 0.4	▲ 2.9	529.7
2015年度	222	3.4	1.23	▲ 1.2	920,537	532.9	1.3	▲ 2.3	493.8
2016年1月	215	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	217	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	133.1	0.5	1.2	27.5
3月	214	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	214	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	212	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	132.2	0.2	▲ 1.1	22.3
6月	208	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	201	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	208	3.1	1.37	0.2	82,242	130.7	0.3	▲ 4.6	22.3
9月	202	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	198	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	200	3.1	1.41	24.5	85,051	139.3	0.2	▲ 1.5	27.3
12月	202	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	202	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	192	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	134.5	1.1	▲ 3.8	31.2
3月	187	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	187	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	206	3.1	1.49	8.6	78,481	134.4	0.4	▲ 0.1	23.7
6月	190	2.8	1.51	3.4	87,456			2.3	31.5
7月	189	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	185	2.8	1.52	19.7	80,562	134.0	0.7	0.6	23.3
9月	188	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8
10月	184	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	180	2.7	1.56	5.8	84,703	142.8	0.3	1.7	25.8
12月	181	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2
2018年1月	164	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3
(平成30年)2月	170	2.5	1.58	7.8	69,071	136.1	▲ 0.5	0.1	29.6
3月	172	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616			▲ 0.2	43.8
4月	172	2.5	1.59	11.4	84,226			▲ 1.3	22.5
5月	155	2.2	1.60	15.3	79,539	136.0	0.5	▲ 3.9	23.6
6月	167	2.4	1.62	▲ 4.2	81,275			▲ 1.2	29.2
7月	170	2.4	1.63	11.3	82,615			0.1	28.1
8月	166	2.4	1.63	4.9	81,860	133.2	▲ 0.6	2.8	23.3
9月	161	2.3	1.64	▲ 5.4	81,903			▲ 1.6	30.8
10月	166	2.4	1.62	6.1	83,330			▲ 0.3	26.1
11月	169	2.5	1.63	4.0	84,213	141.6	0.3	▲ 0.6	27.9
12月	164	2.4	1.63	▲ 4.0	78,364			0.1	25.0
2019年1月	172	2.5	1.63	▲ 8.5	67,087			2.0	24.9
(平成31年)2月	160	2.3	1.63	▲ 3.7	71,966	137.4	0.6	1.7	30.0
3月	174	2.5	1.63	▲ 0.2	76,558			2.1	41.7
4月	168	2.4	1.63	▲ 6.0	79,389			1.3	23.0
5月	162	2.4	1.62	▲ 10.1	72,581	137.7	0.5	4.0	24.7
6月	161	2.3	1.61	0.9	81,541			2.7	29.0
7月	154	2.2	1.59	▲ 10.6	79,232			0.8	30.0
8月	154	2.2	1.59	0.9	76,034	136.3	0.4	1.0	24.2
9月	167	2.4	1.57	▲ 6.4	77,915			9.5	34.7
10月	166	2.2	1.57	▲ 8.8	77,123			▲ 5.1	19.2
11月	151	2.2	1.57	▲ 15.2	73,523			▲ 2.0	23.8
12月									22.6

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)